

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 09-005

PDCA	事務事業名	消防団費	部課等名	総務部 防災交通課 防災減災担当	担当	瀧本	
					内線等	287	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第4章 安全で快適に住み続けられるまち					
		節：第1節 安全・安心な社会の形成					
		基本施策：3. 消防・救急対策					
		単位施策：(3) 非常備消防の強化					
	根拠法令等	半田市消防団条例					
	対象・目的	火災や自然災害から安全・安心な社会を形成するため、地域の実情に精通し、防災技能や指揮系統に優れた消防団の充実・強化を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	各地区で行われている防災訓練などさまざまな防災・防火活動に消防団の参加を求めていく。併せて、女性消防団員の拡充にも努めて行く。施設整備や修繕、装備・待遇改善にも引継ぎ努めて行く。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		28年度	29年度	30年度	単位
		①費用弁償に係る出勤人数		17,138	16,635	16,176	人
		②地区防災訓練参加団員数		638	644	289	人
		③					
		事業費		73,605	74,461	74,670	千円
		人件費		3,279	3,640	3,744	千円
		総事業費		76,884	78,101	78,414	千円
		活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位
	①費用弁償に係る出勤人数一人当たりのコスト		2	2	2	千円	
	②地区防災訓練参加回数一回当たりのコスト		11	11	8	千円	
	③						
	成 果	成果指標		28年度	29年度	30年度	単位
		①地区防災訓練参加団員数	実績値	638	644	289	人
			目標値	500	600	650	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ある	⑧受益者負担適正化余地	ない
	事業の評価・課題	C					
		消防団は、火災等の災害出動により、市民の安心・安全に寄与することができた。各地区の自主防災訓練参加団員数が減少しているため、積極的に参加できるよう促し、地域に信頼される関係を構築する必要がある。女性消防団員においては、阿久比町と合同で防火啓発運動を実施し、地域連携の強化と活動の活性化を図ることができた。施設については、乙川南分団詰所の老朽化したホース乾燥塔の建替えを行った。また、半田東分団車両積載ポンプ及び各分団の車両積載チェーンソーの更新を行い装備の充実を図った。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進					
		消防団員の地区防災訓練参加数について、地域等からの参加要請が減少している。今後は、消火訓練はもとより、専門的な知識を生かした訓練指導を行うことで地域に信頼される関係を構築できるよう参加を促し、地域の防災力の向上に努めていく。女性消防団員については、小・中学校などでの防災教室の開催など、引き続き子どもたちへの防火・防災教育の普及、啓発活動を推進していくとともに知多地域の女性消防団員と連携を強化することで活動の活性化を図る。					
	令和元年度の目標					目標値	単位
		①地区防災訓練参加団員数				650	人